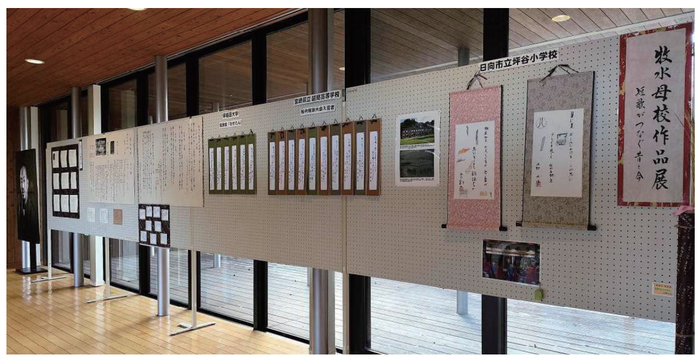
文学館だより

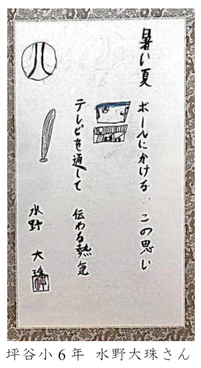
令和 8年 2月 1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982－68－9511
文責 日髙 第118号

＝若山牧水生誕140年・若山牧水記念文学館開館20年Memorial Year＝

牧水母校作品展はじまりました　3校そろう母校展は今回が最後



坪谷小6年 山口創大さん



坪谷小6年 水野大珠さん

牧水が卒業した母校3校の協力を得て、今回も「牧水母校作品展」開催の運びとなりました。3校のご協力に心から感謝申し上げます。今年度をもって坪谷小学校の閉校が決まりましたので、3校がそろう母校展は今回が最後となります。

日向市立坪谷小学校

暑い夏ボールにかけるこの思いテレビを通して伝わる熱意　6年　水野　大珠
牧水祭せまってくるよ本番が思いをこめて朗読するよ　6年　山口　創大

牧水は明治29年（1896）、坪谷尋常小学校を卒業しました。

宮崎県立延岡高等学校

夏風に揺られる髪はないけれど君の瞳にはゆられてばかり　1年　米澤　海晴
君が言う「じゃあまた明日。」の一言が明日の私の足を動かす　1年　竹村　亮星
なぜ動く違う速さでゆっくりと入試で苦しむ点P・Q　1年　去川　遥生
おさがりの辞典の背中の姉の名に元気にしてる？とつい問いかける　2年　吉田　百花
「しんどいな」笑って言えば返る声「まだいけるっしょ」風が頬打つ　2年　淵上　敬太
先輩の姿が見えぬグラウンド真似てみる程感じる強さ　2年　黒木　愛斗
なにがしたい？その問いだけが胸に刺さるやりたいこともまだ見つからず　3年　緒方　陽菜
指先ですくおうとした夕焼けがするりと逃げて夜になるだけ　3年　椎葉　結菜
目が合うと君と私のPK戦いつも決まって引き分けなのに　3年　山口　凛子
授業中気付けばノートに君の名が慌てて消すも思いは残る　3年　萱野みずき

牧水は明治37年（1904）、旧制延岡中学校を卒業しました。

早稲田大学短歌会「わせたん」

風景へ溶け出すように眠る夜のどの街灯も確かな装置　2年　植田　遥大
日照雨(そばえ)ふる地層を眺めながら食むクロワッサンの歯に湿りゆく　1年　神澤　保仁
雨（日給1000円だったらどうだろう）が、すごく降るすごい夜　1年　小杉　セオ
濡れると細くなる犬のうれしさをそのまま話したりしたいのに　3年　髙田　皓輔
生きてたら死ぬからね　OK　それまでに花束は整えて　2年　太朗　千尋
カーナビがいいな、君の曲がる方にあわせて考え直すカーナビ　3年　俵　匠見

初出『短歌研究』2026 1＋2月号

牧水は明治41年（1908）、早稲田大学を卒業しました。

「牧水母校作品展」は形を変えて今後も続けていきますので、楽しみにお待ちください。

若山牧水全集（増進会出版社）月報より　第2話

前回から始まった若山牧水全集（増進会出版社）の月報紹介。今月は林 茂樹氏（社団法人沼津牧水会前理事長）が語る牧水像に迫りたいと思います。

第1巻月報（1992・10）　2　牧水と沼津千本松原　林　茂樹

沼津市千本松原の一角に、沼津市若山牧水記念館があります。一万人を越す人々から寄せられた六千万円の寄付金を基に、沼津市によって建設され、昭和62年11月1日開館いたしました。以来、入館者も多く、大変好評を得ております。

さて、牧水と沼津との深い関わりは、大正9年8月、東京での生活に疲れた牧水が一家を挙げて沼津へ移住してきた時からはじまります。暫くの静養のつもりであったのが永住の気持に変わり、大正14年には千本松原に隣接した土地を五百坪入手して住宅を新築し、詩歌の総合雑誌「詩歌時代」を発刊するなど活発な文学活動を展開しております。

東京からの移住先がなぜ沼津だったのか。なぜ沼津に永住する気になったのか。それは沼津が東京からそう遠くなく、交通の便もよく、文学活動を継続するのに支障がなかったからでもあろうが、何よりも千本松原に心惹かれたからなのです。

牧水はなぜ千本山乗運寺に眠っているのか。これも千本松原との関係からです。

十六世紀半ば、以前鬱蒼と茂っていた松原が戦乱のため伐り払われ、住民は潮風の害を受けて苦しんでいました。諸国行脚中ここへ立ち寄った僧増誉長円は、一本植えるごとに阿弥陀経を誦しつつ一千本の松を手植えし、旧に復したと伝えられています。今から450年ほど前のことであり、村人がこれに感謝して建てた庵が千本山乗運寺のはじまりで、増誉長円は開山です。

大正15年、この千本松原の松を伐採する計画が県から出されました。これを知った牧水は、この計画に反対する市民大会で苦手であった演説を行い、「沼津千本松原」と題する二つの随筆を沼津日日新聞ならびに東京時事新報に寄稿するなど反対運動の先頭に立ち、ついにこの計画は中止されました。牧水は千本松原の松を守った功労者の一人です。

これを機に牧水と乗運寺との縁が深まり、昭和3年牧水の葬儀の導師を住職の林彦明（私の祖父）が勤め、牧水は乗運寺に埋葬されました。（墓石に百万遍知恩寺梅樹題とあるのは、林彦明がその後京都の百万遍知恩寺に晋董したためで、梅樹は林彦明の号です。なお、牧水をみとった主治医稲玉信吾氏の墓が、奇しくも牧水の墓と近接しています。）

牧水没後、昭和4年千本松原に全国で最初の歌碑が建立され、戦後まもない頃から毎年「沼津牧水会」が主催して行う碑前祭は、沼津の秋の風物詩として伝統的な行事となっております。「沼津に牧水記念館を」という声がそこに集う人々を中心に起こり、昭和56年記念館建設への募金活動がはじまりました。

善意の寄付が数多く寄せられ、昭和62年記念館はついに完成したのです。資料の収集にあたっては、若山旅人、大悟法利雄、鈴木浚一、高橋希人、竹沢正夫の各氏をはじめ多くの人々のご協力を得、初代館長大悟法利雄氏の構想を基に展示がなされました。記念館の運営については、社団法人沼津牧水会が沼津市から委託され、携わっております。　（社団法人沼津牧水会理事長／千本山乗運寺住職）

次回は第1巻月報（1992・10）　3　昔々のお話　大悟法静子　を予定しています。

テレビ宮崎より牧水パネルを寄贈いただきました

玄関でお出迎え

母校の作品を喜んでいるかのよう

昨年12月29日に放送された「牧水のみち～堺雅人と吉田類が愛した歌人」（テレビ宮崎開局55周年記念特別番組）、ご覧になりましたか。牧水生家を舞台に伊藤先生（若山牧水記念文学館館長）と俳優 堺雅人氏（伊藤先生は高校時代の恩師）が牧水を語るコーナーで、お二人の後ろに飾られていた牧水先生をパネルにして文学館に届けてくださいました。ありがとうございました。

牧水先生の一首　折に触れて出会う一首を紹介しています

抽匣（ひきだし）の数の多さよ家のうちかき探せども一銭もなし

ひきだしの　かずのおおさよ　いえのうち　かきさがせども　いっせんもなし

詞書「貧窮」として連作7首を詠んでいる中の1首。大正9年詠。この頃は「創作」の発行が遅れがちになり休刊もふえ、次第に会員も減り始め、経営が思うようにいかなくなった頃である。**苦しみに苦しみぬけど貧乏に懲（こ）るる心はまだ足らぬかも** とも詠んでいるが、どれもどん底の辛さを感じさせない。ここにもまたひとつ牧水の魅力を見つけた思いがした。

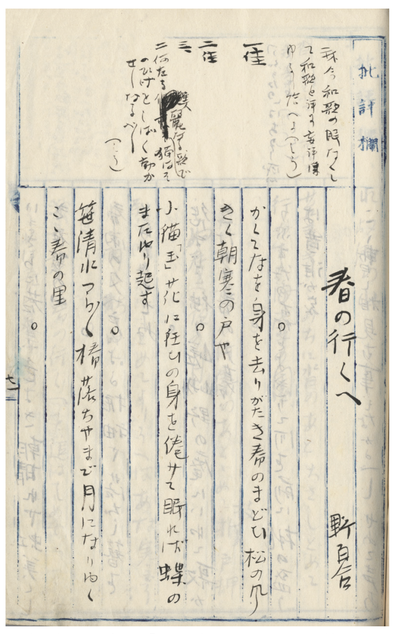
参照『若山牧水全歌集　伊藤一彦編』『名歌即訳若山牧水』

おことわり

冒頭掲載　＝若山牧水生誕140年・若山牧水記念文学館開館20年Memorial Year＝　は、今年度末まで掲載させていただきます。

収蔵資料から

其の109　回覧雑誌『曙（あけぼの）』



牧水の短歌。当時は「野百合」という号を使っていた。

延岡中学時代に、友人たちと発行していた文芸雑誌です。短歌や小説、論文や新体詩など、各自が自筆した原稿を綴るので、世界に一冊しかありません。

紙面上部には批評欄があり、回覧しながら書き込んでいきます。だいたい月1回のペースで発行されていきました。

牧水は短歌や小説を盛んに発表しており、高評価を受けていました。

参照／『若山牧水伝』

牧水歌碑めぐり

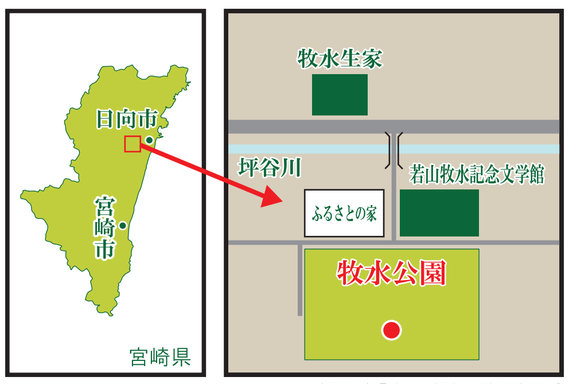
其の110　牧水公園　歌の小径（こみち）

平成7年建立

母恋し
かかるゆふべの
ふるさとの
桜咲くらむ
山の姿よ
牧水　旅人書

早稲田大学3年の明治40年春に、東京でふるさとの母を恋しく思って歌った作です。牧水という雅号は、大好きな母マキと故郷の川や雨から思いついたものです。寂しく、つらいときに母を想い浮かべるのは、人の心の常でしょう。優しい母と美しい桜が重なりあって、一つのものとして思われているのが印象に残ります。

牧水公園には、うたの小径に沿って10基の歌碑が建てられています。牧水の愛したふるさとの風景を眺めながら、牧水短歌に親しむことができます。（公園内には11基）



参照／『命の砕片　改訂新版』

企画展『牧水43年の生涯』

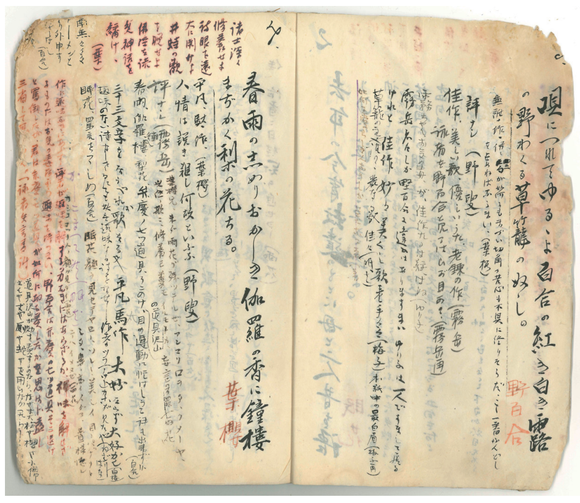
3月から第3期「牧水誕生」が始まります

会期　3月6日（金）～5月31日（日）

昨年（生誕140年）から、令和10年（没後100年）にかけて、牧水の生涯と現在まで続く牧水顕彰を紹介する企画展を開催しています。

3月からは第3期「牧水誕生」を開催します。文学を愛する友人たちとの交友。そして、人生を決定づける「短歌」との出会い。多感な十代を迎えた延岡時代における文学活動を紹介します。

展示資料から　回覧雑誌『野虹（やこう）』



延岡中学時代に発行された短歌専門の回覧雑誌です。級友のほか、学外からも参加者がありました。

一回目の回覧は、短歌だけを書いて各々が批評を書き、二回目は作者名を追記した状態で回覧、批評を書き込みます。

上の画像は、右が牧水（当時の雅号「野百合」）、左が小野葉桜（現美郷町出身）の短歌です。

若山牧水記念文学館
〒883-0211　宮崎県日向市東郷町坪谷1271番地

■利用案内■
【開館時間】9：00～17：00（入館は16：30まで）
【休 館 日】月曜日（祝日は除く）　年末年始（12月29日～1月3日）
【入 館 料】小・中学生／100円　高校生以上／310円（20名以上の団体は2割引）
【お問合せ】TEL　0982-68-9511 FAX　0982-68-9512【公式HP】https://www.bokusui.jp
〈ホームページはこちらから〉